

ユニセフ(UNICEF:国連児童基金)は、

すべての子どもの命と権利を守るため、最も支援の届きにくい子どもたちを最優先に、約190の国と地域で活動しています。

保健、栄養、水と衛生、教育、暴力や搾取からの保護、HIV/エイズ、緊急支援、アドボカシーなどの支援活動を実施し、その活動資金は、すべて個人や企業・団体・各国政府からの募金や任意拠出金でまかなわれています。

水と衛生 子どもたちが生きていく上で、水と衛生は大きな問題です。汚れた水や不衛生な環境は、感染症を引き起こします。幼い子どもたちのなかには、下痢などで命を落としてしまうことも少なくありません。

ユニセフは、清潔な水を届けられるよう井戸などの給水設備を作ったり、衛生的な生活を送れるようトイレを設置したり、学校教育や保健所を通じて、石けんを使った正しい手洗いなどの衛生習慣を広めるといった活動をすすめています。

子どもたちが安全な水や衛生施設にアクセスできれば、単なる生活の向上に限らず、健やかに成長し、教育を受け、明るい未来を持つ機会が得られるのです。

教育 教育は基本的人権であり、質の高い教育は個人および社会全体の発展と豊かな暮らしのために必要不可欠です。

2000年時点では1億人の子どもたちが小学校に通っておらず、その約3分の2は女の子でした。地道な活動が実を結び、少しずつ改善がみられているものの、2018年時点でも、いまだ約5,900万人の子どもたちが小学校に通っていません。

ユニセフは、ジェンダーの区別なくすべての子どもたちに質の高い教育を提供することあらゆる種類の差別と不公平を撤廃することに重点を置きつつ、教育支援を届けています。

保護 暴力、搾取、虐待から子どもたちを守ることは、子どもの生存、成長、発達の権利を実現するために必要不可欠です。世界中で、推定3億人の子どもたちが暴力や、搾取、虐待にさらされています。その中には、コミュニティ学校、その他の機関、また紛争時の最悪な形態の児童労働、また女性性器切除(FGM/C)や児童婚など害のある習慣といったものも含まれています。何千万人も子どもたちが、直接の被害を受けていなくとも、十分に守られているとは言いがたい状況にあります。

HIV/エイズ 世界中で、HIV/エイズの治療ケアや感染予防に関する研究・取り組みが進むなか、エイズ関連死の年間死亡数は2005年の190万人をピークに、2019年時点で69万人にまで減少するなど、成果が見られています。

国際的なエイズへの取り組みがすすむ一方、HIV感染者の年齢別グループのなかで、青少年と若者(10~24歳)が占める割合は増え続けており、2019年、新たにHIVに感染した10~24歳は46万人、うち10~19歳は17万人にのぼります。この課題に取り組むため、学校やコミュニティで、HIV/エイズに対する正しい知識や有効な予防方法を伝える啓発活動などが行われています。

ユニセフが目指すのは、「エイズのない世代」の実現。「エイズのない世代」とは、HIVに感染せずに誕生し、感染しないまま20歳を迎える世代のことです。その実現のため、ユニセフはパートナーとともに、すべての子どもたちをHIV/エイズの脅威から守るために、世界各地で取り組んでいます。

インクルージョン インクルージョン(誰もが受け入れられる社会)は、ユニセフが社会・経済政策に関して行う提言であり、社会へのインクルージョンを様々な形で推し進めるためのものです。民族やジェンダー、障がい、その他様々な要因で起こる個人への差別に対処するだけでなく、構造的な差別をなくすために取り組んでいます。施設の機能を改善したり、子どもたちの問題に資源を配分できるよう、ユニセフは様々な省庁や統計局をはじめ、議会、国内人権団体、地域当局、民間部門、市民社会と協力しています。

例えば、教育面でのインクルージョンでは、障がいのあるなしに関わらず、子どもたちを普通学級で受け入れることを推進するために、垣根なく、イノベティブな技法を取り入れています。

保健 世界で5歳の誕生日を迎えることなく亡くなる子どもは年間520万人。その原因の多くは安全な水やワクチンがあれば防ぐことができるものです。

ユニセフは、すべての子どもが、乳幼児期に十分なケアを受け、守られ、より良い人生のスタートを切ることができるよう、予防接種の普及安全な水や衛生的な環境の確保、母乳育児の推進、栄養改善など総合的な支援を行っています。

栄養 毎年、数百万人の子どもたちが重度の急性栄養不良により、命の危険にさらされています。栄養不良とは、健康に育つためのバランスのとれた栄養が摂取できていない状態を示し、発育阻害、消耗症、低体重、過体重などの形態があります。栄養不良の子どもの中には、複数の形態を示すケースもあります。

栄養不良は人的・経済的に大きな代償を伴います。栄養不良の子どもは健康に育つことができないだけでなく、病気にかかりやすくなったり、また病気が治りにくい原因になったりもします。また、栄養不良がもたらす幼いころの知能や身体の発達の遅れは、その後も子どもたちの人生を脅かし続けます。そのため、栄養分野への投資は、重要な開発優先事項とみなされるようになっていきます。

ユニセフ募金とは・・・
子どもたちを守るユニセフの活動
全体を支えます。
150以上の国と地域で行われている
ユニセフの活動全体を
支えている大切な募金です。

緊急支援・人道支援 紛争、自然災害、感染症の蔓延…。そうした緊急事態や人道危機の中で、最も犠牲を強いられるのは、いつも子どもたちです。

1946年に誕生したユニセフ(国連児童基金)の最初の役割も、子どもたちへの人道支援でした。当時、第二次世界大戦の影響をうけた国々では、多くの子どもたちが家族を失い、家を焼かれて町をさまよっていたのです。

それから70年以上が経ちましたが、世界には今なお、紛争や災害によって、心身ともに傷つき、教育を受けられず、さまざまな困難に直面する子どもたちが多くいます。また近年の人道危機は、規模の拡大、長期化、複雑さが増す傾向にあり、長期に渡って子どもやその家族が重大な危険に晒されています。

ユニセフは創設以来、どんなに厳しい状況でも、子どもたちの命と子どもたちの権利を守るために活動を続けています。世界中から寄せられた活動資金をもとに、保健、栄養、水と衛生、子どもの保護、教育、HIV/エイズの各分野における支援活動を実施しています。支援物資は、コペンハーゲンにあるユニセフ物資供給センターをはじめとする各地の供給箇所から、ニーズに合わせて迅速に届けられる物流システムが構築されており、一刻を争う緊急事態下において重要な役割を果たしています。

ジェンダーの平等 ジェンダーは、何が女性的で、何が男性的かを表す、社会的・文化的に構築された概念です。しかし、社会で構築されたルールや習慣は、女の子や女性を教育や社会参加などから遠ざけ、未来への可能性を閉ざしてしまう要因にもなっています。

ユニセフは、平等と無差別という基本的人権の原則を、ジェンダーの平等を考える柱として認識し、ジェンダーの平等を推進しています。各国における支援プログラムを通して、女性と女の子が、コミュニティの政治的、社会的、経済的な発展に、全面的に参加できるよう支援しています。

特に教育分野においては、女の子や男の子に関わらず、すべての子どもが教育の機会を得られるように取り組んでいます。



生徒会本部主催
ユニセフ募金
令和3年1月28.29日



募金にご協力いただきありがとうございました!(!~)!

